

再 評 価 調 書

I 事業概要					
事業名	農業農村整備事業（緊急農地防災事業）				
地区名	安城鹿乗川地区				
事業箇所	安城市				
事業のあらまし	<p>本地区は安城市の南東部の農村地域に位置している。</p> <p>地区内流域 1,698ha の排水は、洪水時には一級河川鹿乗川への自然排水が不可能なため、新鹿乗川排水機場により一級河川矢作川へ強制排水されている。</p> <p>しかしながら、近年の都市化の進展による降雨流出量の増加により、農地、農業用施設及び公共施設等にしばしば湛水被害が生じていた。</p> <p>このため、本幹線排水路を整備することにより湛水被害を防止し、農業経営の安定と県民生活の安全・安心を図ることを目的に、平成22年度から緊急農地防災事業を実施している。</p>				
事業目標	<p>【達成（主要）目標】</p> <p>排水能力が不足する幹線排水路を改修し、農地、農業用施設及び公共施設等の湛水被害を防止する。</p> <p>（基準雨量 278.6 mm/3 日、1/20 年確率雨量）</p> <p>【副次目標】</p> <p>なし</p>				
計画変更の推移		事業採択時	再評価時	変動要因の分析	
	事業期間	H22～H26	H22～H33		
	事業費（億円）	3.9 億円	3.9 億円		
	内訳 経費	工事費	3.8 億円	3.8 億円	
		その他	0.1 億円	0.1 億円	
事業内容	排水路 L=2,319m	排水路 L=2,319m			
II 評価					
①事業の必要性の変化	1) 必要性の変化	<p>【事業採択時の状況】</p> <p>地区内開発による降雨流出量の増加により、排水路の流下能力が不足しており、周辺農地や農業用施設等に湛水被害を生じているため、排水能力を確保するための整備を行う必要があった。</p> <p>【再評価時の状況】</p> <p>計画施設は地区の湛水被害を防止するための基幹的な排水路であり、事業採択時と比べ地区内流域の状況にほとんど変化はないため、整備の必要性は事業採択時とほぼ同程度と考えられる。</p> <p>【変動要因の分析】</p> <p>地区内流域の状況にほとんど変化はなく、事業の必要性について変化はない。</p>			
	判定	B	<p>A： 事業着手時に比べ必要性が増大している。</p> <p>B： 事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。</p> <p>C： 事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。</p> <p>※事業着手時と比較することが適切ではないと判断される場合は、「事業着手時」を「前回評価時」に置き換えることができる。</p>		
		<p>【理由】</p> <p>地区内流域の状況に変化はなく、降雨流出量も大きな変動はないため、本事業の必要性は事業採択時と同程度と考えられる。</p>			

IV 事後評価実施の有無と主な評価内容

■対象（事業完了後5年目） 対象外

【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】

—

【主な評価内容】

本事業は想定規模と同等の降雨がなければ効果を検証できないため、事業完了後5年以内に想定規模と同等の降雨が発生した場合に効果を検証する。